

（北海道 羅臼町） 【団体名】羅臼町地域生物多様性協議会

事業の背景・目的

令和2年度より地域の主体的な対策「緩衝地帯づくり」となる草刈り活動が始まった。“ヒグマに負けない地域づくり”をテーマとし、地域が結束により野生動物を生活圏に寄せ付けない強い環境をつくる。これにより互いの生活環境のすみ分けが図られ、人と野生生物の軋轢を低減させ、事故防止につなげながら捕獲過剰化を防ぎ、知床を抱える地域として生態系保全、共生環境を創出する取り組みである。活動成果を基に、令和4年度は、連合町内会、知床財団、羅臼町が連携。知床での野生動物との関り方に関する学び、意識高揚を図る。また、ゼロカーボンシティ宣言に基づき、環境に考慮した地域活動の観点からも、本活動に係る燃料式作業機器からの脱却（バッテリー式への移行のきっかけづくり）により、低炭素化社会の実現を目指し、さらにお年寄りや女性も参画しやすい環境を整えるべく、安全かつ軽量の作業機器の導入・充実を達成し、活動の持続性を高めるもの。

事業の内容

知床の自然を支えている、陸域における生態系の頂点に位置するヒグマと人との軋轢を低減させ、不要な捕獲圧の過剰化を防ぐため、地域活動として、緩衝地帯を設ける草刈り活動を推進した。なおかつ、知床ならではの課題解決に向け、一層の地域の意識醸成を図ると共に、自然環境に配慮した作業備品の整備・導入を図り、地域活動の活性と定着につなげた。

令和4年度

事業① 問題個体化予防「緩衝地帯創出」生態系保全

○情報共有及び啓発活動；連合町内会、知床財団、羅臼町が連携し協議体を設立。自然との共生という観点で知床での野生動物との関り方に関する学び、意識高揚を図った。

○環境配慮型（バッテリー充電式）作業機器整備・導入事業
・草刈機 26機・チェンソー 2機・ドリル 1機・関連付属品一式を導入。
※高齢者等でも取り扱いが容易な軽量かつ自然環境に配慮したバッテリー式作業機器の導入を図ることができた。



得られた成果

本活動において、これまでの燃料式機器よりも、安全かつ軽量で操作性が良い本器導入により、高齢の方であっても機動的に活動を実施することができた。環境負荷などの観点からも高評価を得ている。当町の基幹産業は水産業で、一部の漁業種で漁労開始日と重なったことから、参加者が減少した日が有るが、おおむね参加者は増加傾向を示した。（7/24；共栄町21名参加（R3;20名）、7/31；岬町12名参加（R3;16名）、8/07；海岸町31名参加（R3;18名））また、これまでの間蓄積されてきた出没データを基に、生活圏への進入が懸念されるゾーンでの活動展開ができてきており、前年度との比較からも、ヒグマ対応件数・出没頭数ともに減少に貢献したものとする。

【町内全体ヒグマ対応件数・前年度との参考対比（8/10現在）】 R3年度；対応214件（頭数133）、R4年度；対応143件（頭数140）